

第6回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査 (通称：大規模アンケート) 実施のお知らせ

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会

継続するから、変化が見える

2003年から23年。第6回調査へ

継続して調査することで、改善したこと、変わらない課題、そして新たに生じた課題を明らかに！

第1回～第5回・延べ87,380件の蓄積

2003

第1回
19,291件

研究環境・キャリア
の男女格差を可視化

2007

第2回
14,110件

ポストクの雇用不安
女性の「独立」の壁

2012

第3回
16,314件

支援制度が進んでも
研究資源・役職格差
が残存

2016

第4回
18,159件

昇進・評価・無意識
のバイアスが課題

2021

第5回
19,506件

女性の昇進の遅れ
任期の短期化・雇止め
社会保障加入率の減少

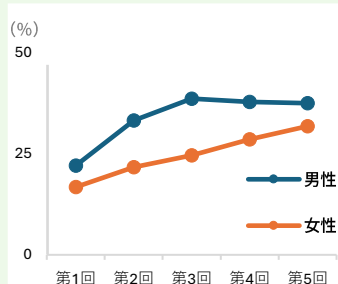
2026

第6回

あなたの回答が
次のデータに

改善してきた指標を確認

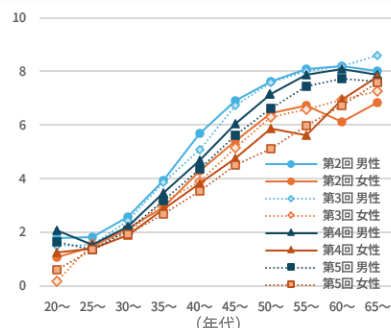
これまでの取り組みの成果を明示



大学等で研究室を主宰したい

何が変わっていないのか

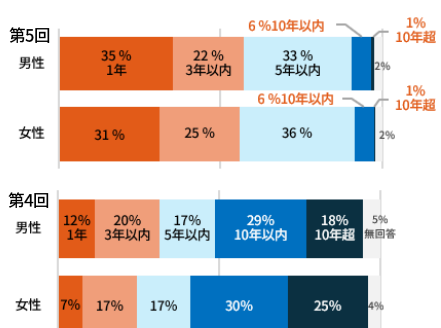
長年変わっていない課題を検証



大学・高専における男女別役職指数

何が新たな課題か

経年比較から見た新しい課題を捉える



現職が任期付き職の任期年数

社会につながるデータ

みなさんの回答が、よりよい研究環境の実現に活かされます



学協会の
提言・要望



政策検討の
基礎資料



次回調査との
比較基準

あなたの今を、未来のエビデンスに

アンケートの実施期間

2026年10月10日（土）
～11月13日（金）

回答はこちらから



Web回答はこちら
<https://t-enq.com/enq/kagaku>



実施：一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会
公式サイト：<https://djrenrakukai.org/>

男女共同参画学協会連絡会とは

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会

科学技術分野で、女性と男性がともに個性と能力を発揮できる環境づくりのため、
分野を超えて学協会が連携し、調査・情報共有・提言・啓発を行っています



2002年発足



115学協会が参加
正式加盟113学協会+オブザーバー2学協会

2020年一般社団法人化

主な活動



大規模
アンケート



シンポジウム



加盟学協会の
活動調査



提言・要望
意識啓発



女子中高生の
理系進路選択支援

学協会をつなぎ、データを社会につなぐ

第1回 19,291件 回答

2003年実施・2004年報告

平成17年版 男女共同参画白
書で紹介

第2次男女共同参画基本計画
の審議資料に活用

RPD等の研究者支援制度に
つながる提言の根拠に

第2回 14,110件 回答

2007年実施・2008年報告

平成21年～25年版
男女共同参画白書で
「女性研究者が少ない理由」
を連続掲載

女性研究者育成・数値目標
に関する提言を継続

第3回 16,314件 回答

2012年実施・2013年報告

平成26年・27年版 男女共同
参画白書、内閣府・文科省の
審議資料で活用

ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブにつながる要
望の根拠に

第4回 18,159件 回答

2016年実施・2017年報告

平成30年版 科学技術白書
で活用



研究環境・女性登用・
評価指標等の提言へ

第5回 19,506件 回答

2021年実施・2022年報告

JSPS資料で活用
・男女共同参画推進基本指針
・CHEERS!
・調査研究報告書

雇用問題・研究復帰・家族帯
同等を含む近年の提言活動へ

第6回

2026年実施

継続調査だからわかる

- ・変化を可視化
- ・課題の抽出
- ・次の提言・要望につなげる

より良い研究環境のために

上記は主な活用例です。出典：内閣府「男女共同参画白書」、文部科学省「科学技術白書」、日本学術振興会など

継続するからこそ、見えること

調査する→課題を可視化する→提言・要望する→政策・支援策につなげる

1



時系列で
変化を追える

2



変わらない課題を
可視化できる

3



国の白書・政策資料
の根拠になる

4



次の改善提言に
つながる



公式サイト

<https://djrenrakukai.org/>



お問い合わせ

danjo_office24@djrenrakukai.org



EPMEWSE